

広島大学学術情報リポジトリ  
Hiroshima University Institutional Repository

Title	石垣りん四詩集初出一覧
Author(s)	竹中, 典子; 西原, 大輔
Citation	広島大学日本語教育研究 , 30 : 8 - 20
Issue Date	2020-03-25
DOI	
Self DOI	<a href="https://doi.org/10.15027/49090">10.15027/49090</a>
URL	<a href="http://ir.lib.hiroshima-u.ac.jp/00049090">http://ir.lib.hiroshima-u.ac.jp/00049090</a>
Right	Copyright (c) 2020 広島大学大学院教育学研究科日本語教育学講座
Relation	



# 石垣りん四詩集初出一覧

竹中 典子・西原 大輔

List of First Appearance, Ishigaki Rin's Four Poetry Collections

Noriko TAKENAKA, Daisuke NISHIHARA

詩人石垣りん（一九二〇～二〇〇四）は、四冊の詩集を刊行している。

一、処女詩集『私の前にある鍋とお釜と燃える火と』、書肆ユリイカ、

一九五九（昭和三十四）年十二月十日

二、第二詩集『表札など』、思潮社、一九六八（昭和四十三）年十二月二十五日

三、第三詩集『略歴』、花神社、一九七九（昭和五十四）年五月九日

四、第四詩集『やさしい言葉』、花神社、一九八四（昭和五十九）年

四月二十一日

また、石垣りんの死後に『レモンとねずみ』、童話屋、二〇〇八（平成二十）年四月十四日、が刊行されている。なお、第三詩集と第四詩集には、初出一覧が掲載されているが、処女詩集と第二詩集には、初出一覧が掲載されていない。

本稿を作成するにあたり、国立国会図書館、日本近代文学館、神奈川県近代文学館、

日本現代詩歌文学館、法政大学大原社会問題研究所、広島大学図書館、広島県立図書館、南伊豆町立図書館石垣りん文学記念室、詩人石川敏夫様には大変お世話になりました。厚く御礼を申し上げます。

## 一、処女詩集『私の前にある鍋とお釜と燃える火と』

この詩集は、計四回にわたって刊行されている。

- ① 『私の前にある鍋とお釜と燃える火と』、書肆ユリイカ、一九五九（昭和三十四）年十二月十日
- ② 『現代詩文庫 46 石垣りん詩集』、思潮社、一九七一（昭和四十六）年十二月二十五日、第一詩集、第二詩集 および構成詩、未刊詩篇等が収録されている。
- ③ 『石垣りん文庫 1 詩集 私の前にある鍋とお釜と燃える火と』、花神社、一九八八（昭和六十三）年二月二十一日
- ④ 『石垣りん詩集 私の前にある鍋とお釜と燃える火と』、童話屋、二〇〇〇（平成十二）年十月十二日

## 1、原子童話

『女性詩』、創刊号、日本女詩人会、

一九五〇（昭和二十五）年六月一日、三六頁、作者名を石垣りん子と表記

〔再録〕

『銀行員の詩集 一九五二年版』、全国銀行従業員組合連合会文化部、

一九五一（昭和二十六）年七月三十日、六頁、作者名を石垣りん子と表記

## 2、雪崩のとき

『時間』、第二巻第五号、時間社、

一九五一（昭和二十六）年五月一日、三四頁

〔再録〕

『銀行員の詩集 一九五二年版』、全国銀行従業員組合連合会文化部、

一九五二（昭和二十七）年五月一日、一四九―一五〇頁

## 3、祖国

『銀行員の詩集 一九五二年版』、全国銀行従業員組合連合会文化部、

一九五二（昭和二十七）年五月一日、一四一―一六頁

## 4、感想

『銀行員の詩集 一九五三年版』、全国銀行従業員組合連合会文化部、

一九五三（昭和二十八）年七月二十五日、一四一―一五頁

## 5、挨拶

『職組時評』、第二二八号平和特集号、日本興業銀行職員組合、

一九五二（昭和二十七）年八月二十五日、四面

- 〔再録一〕  
『銀行員の詩集 一九五三年版』、全国銀行従業員組合連合会文化部  
一九五三(昭和二十八)年七月二十五日、二二二―二二三頁  
〔再録二〕  
『ほしその』、神戸市星の園幼稚園二十五周年記念誌、出版社不明、  
頁不明、現物未確認  
6、天馬の族  
『ポエトロア』、第四輯、小山書店  
一九五四(昭和二十九)年七月一日、九二―九三頁  
〔再録〕  
『詩学』、第九卷第十三号、詩学社、  
一九五五(昭和三十)年一月二十日、四八―四九頁  
7、薊  
初出未詳、現物未確認  
8、夜話  
『ひろば』、第九一号、全銀連教育宣伝部、  
一九五五(昭和三十)年一月一日、三五―三六頁  
9、百人のお腹の中には  
『時間』、第一卷第三号、時間社、  
一九五〇(昭和二十五)年七月一日、二三頁、作者名を石垣りん子と表記  
10、よるこびの日に  
『銀行員の詩集 一九五一年版』、全国銀行従業員組合連合会文化部、  
一九五一(昭和二十六)年七月三十日、一〇―一二頁、  
作者名を石垣りん子と表記  
11、白いものが  
『銀行員の詩集 一九五一年版』、全国銀行従業員組合連合会文化部、  
一九五一(昭和二十六)年七月三十日、八―九頁、  
作者名を石垣りん子と表記  
12、今日もひとりの  
『銀行員の詩集 一九五二年版』、全国銀行従業員組合連合会文化部、  
一九五二(昭和二十七)年五月一日、一三三―一三四頁  
13、私の前にある鍋とお釜と燃える火と  
〔再録一〕  
『職組時評』、第一一二号、日本興業銀行職員組合、  
一九五二(昭和二十七)年二月十四日、二面、  
初出題名「私の前にある鍋とお釜と燃ゆる火と」  
〔再録〕  
『銀行員の詩集 一九五二年版』、全国銀行従業員組合連合会文化部、  
一九五二(昭和二十七)年五月一日、五八―五九頁、  
再録題名「私の前にある鍋とお釜と燃ゆる火と」  
14、落花  
『日本女性詩集 星宴』、和光社、  
一九五四(昭和二十九)年九月二十日、九―一〇頁  
15、日記より  
『現代詩』、第二卷第五号、百合出版、  
一九五四(昭和二十九)年十二月一日、二二―二三頁、初出題名「日記」  
〔再録〕  
『銀行員の詩集 一九五五年版』、全国銀行従業員組合連合会文化部、  
一九五五(昭和三十)年九月十五日、一五四―一五六頁  
16、会議  
『銀行員の詩集 一九五八年版』、銀行労働研究会、  
一九五八(昭和三十三年)年十月一日、七八―七九頁  
17、女湯  
『銀行員の詩集 一九五八年版』、銀行労働研究会、  
一九五八(昭和三十三年)年十月一日、三七―三八頁  
18、手  
『現代詩』、第三卷第一号、百合出版、  
一九五六(昭和三十一年)年一月一日、二三頁  
19、この世の中にある  
『銀河系』、第九号、銀河系詩社、  
一九四八(昭和二十三)年十一月、七頁、作者名を石垣りん子と表記  
〔再録〕  
『NON・NO』、第十卷第二号、集英社、  
一九八〇(昭和五十五年)年二月五日、頁不明  
20、それを見るのは

- 『銀河系』、第九号、銀河系詩社、一九四八(昭和二十三)年十一月、六頁、作者名を石垣りん子と表記
- 21、0  
『銀河系』、第八号、銀河系詩社、一九四八(昭和二十三)年九月、一三―一五頁?、作者名を石垣りん子と表記
- 22、峠  
『銀河系』、第十号、銀河系詩社、一九四八(昭和二十三)年十二月、七八頁、作者名を石垣りん子と表記
- 23、海とりんごと  
『時間』、第二卷第二号、時間社、一九五二(昭和二十六)年二月一日、三〇頁、作者名を石垣りん子と表記  
〔再録〕
- 24、顔  
『行友会誌』、日本興業銀行行友会、一九五二(昭和二十六)年四月、二四―二六頁  
『時間』、第一卷第五号、時間社、一九五〇(昭和二十五)年九月一日、二二頁、作者名を石垣りん子と表記
- 25、悲劇  
『行友ニュース』、日本興業銀行行友会、一九五五(昭和三十)年十二月、頁不明、現物未確認
- 26、次難  
『銀行員の詩集 一九五七年版』、銀行労働研究会、一九五七(昭和三十)年十一月十日、二四四―二四五頁
- 27、三十の抄  
初出未詳、現物未確認
- 28、屋根  
『現代詩』、第一卷第一号創刊号、百合出版、一九五四(昭和二十九)年七月一日、四二頁  
〔再録〕  
『銀行員の詩集 一九五四年版』、全国銀行従業員組合連合会文化部、一九五四(昭和二十九)年七月二十五日、二〇―二二頁
- 29、犬のいる露地のはずれ  
『現代詩』、第二卷第五号、百合出版、一九五五(昭和三十)年五月一日、三三―三四頁  
〔再録〕  
『ワン』、出版社不明、二〇〇四(平成十六)年四月、頁不明、現物未確認
- 30、貧乏  
『銀行員の詩集 一九五五年版』、全国銀行従業員組合連合会文化部、一九五五(昭和三十)年九月十五日、一三六―一三七頁
- 31、家  
初出未詳、現物未確認
- 32、夫婦  
初出未詳、現物未確認
- 33、月給袋  
『銀行員の詩集 一九五七年版』、銀行労働研究会、一九五七(昭和三十)年十一月十日、一六八―一六九頁
- 34、風景  
『銀行員の詩集 一九五六年版』、銀行労働研究会、一九五六(昭和三十)年八月二十五日、六五頁
- 35、用意  
『時間』、第二卷第一号、時間社、一九五一(昭和二十六)年一月一日、八頁、作者名を石垣りん子と表記  
〔再録〕  
『銀行員の詩集 一九五一年版』、全国銀行従業員組合連合会文化部、一九五一(昭和二十六)年七月三十日、七八頁、作者名を石垣りん子と表記
- 36、私はこの頃  
初出未詳、現物未確認
- 37、ひめぐと  
『時間』、第一卷第四号、時間社、一九五〇(昭和二十五)年八月一日、一三頁、作者名を石垣りん子と表記  
〔再録〕

『ぼくぐなん』創刊号、ぼくぐなん、

一九八一（昭和五十六）年十二月二十日、頁不明

38、この光あふれる中から  
初出未詳、現物未確認

39、不出来な絵

『銀行員の詩集 一九五三年版』、全国銀行従業員組合連合会文化部、  
一九五三（昭和二十八）年七月二十五日、六四―六六頁

40、ぬげた靴

初出未詳、現物未確認

41、風景

『銀行員の詩集 一九五九年版』、銀行労働研究会、

一九五八（昭和三十三年）十月十五日、七八頁

42、その夜

初出未詳、現物未確認

〔再録一〕

『現代詩』、第七卷第四号、飯塚書店、

一九六〇（昭和三十五年）年四月一日、八―九頁

〔再録二〕

『詩学』、第十六卷第三号、詩学社、

一九六一（昭和三十六）年三月十五日、四〇頁

43、落葉がみんな私に

『銀行員の詩集 一九五九年版』、銀行労働研究会、

一九五八（昭和三十三年）十月十五日、七七―七八頁

## 二、第二詩集『表札など』

この詩集は、計四回にわたって刊行されている。

①『表札など』、思潮社、

一九六八（昭和四十三）年十二月二十五日

②『現代詩文庫46 石垣りん詩集』、思潮社、

一九七一（昭和四十六）年十二月二十五日、第一詩集、第二詩集、

および構成詩、未刊詩篇等が収録されている。

③『石垣りん文庫2 詩集 表札など』、花神社、

一九八九（平成元）年五月二十日

④『石垣りん詩集 表札など』、童話屋、  
二〇〇〇（平成十二）年三月三日

1、シジミ

『新日本文学』、第二五七号、新日本文学会、

一九六八（昭和四十三）年十二月一日、六四頁

〔再録〕

『詩学』、第二八卷第六号、詩学社、

一九七三（昭和四十八）年六月三十日、四〇―四二頁

2、子供

『歷程』、第一二〇号、歷程社、

一九六八（昭和四十三）年九月一日、一五―一六頁

〔再録〕

『フロリア』、学習研究社、

一九七二（昭和四十七）年三月、頁不明、現物未確認

3、表札

『詩と批評』、第一卷第五号、昭森社、

一九六六（昭和四十二）年九月一日、二二―二三頁

〔再録一〕

『詩と批評』、第二卷第二号、昭森社、

一九六七（昭和四十二）年三月一日、一五―一六頁

〔再録二〕

『わいふ』、第一七三号、グループわいふ、

一九八二（昭和五十七）年一月一日、四―五頁

4、くらし

『歷程』、第一一七号、歷程社、

一九六八(昭和四十三)年六月一日、一四頁  
〔再録一〕

『詩と批評』、第三卷第十二号、昭森社、

一九六八(昭和四十三)年十二月一日、一八頁  
〔再録二〕

『家庭画報』、第十五卷第一号、世界文化社、

一九七二(昭和四十七)年一月二十日、九三頁  
5、夜毎

『歷程』、第二二〇号、歷程社、

一九六八(昭和四十三)年九月一日、一四―一五頁  
〔再録〕

『伊豆新聞』、伊豆新聞社、

一九九七(平成九)年十二月二十一日、六面  
6、旅情  
初出未詳、現物未確認

7、海辺  
初出未詳、現物未確認

『詩人連邦』、第十一卷第九号、詩人連邦発行所、

一九六六(昭和四十二)年九月一日、二二―二三頁  
初出題名「海辺のふるさと」

8、花

『歷程』、第九〇号、歷程社、  
一九六六(昭和四十二)年二月一日、一一頁

9、幻の花

『十勝毎日新聞』、十勝毎日新聞社、

一九六三(昭和三十八)年十月二十日、生活詩シリーズ、四面  
初出題名「菊」

〔再録一〕

『鹿児島新報』、鹿児島新報社、

一九六三(昭和三十八)年十月二十七日、六面、再録題名「菊」  
〔再録二〕

『伊勢新聞』、伊勢新聞社、

一九六三(昭和三十八)年十一月一日、十一月のこよみ、五面、

再録題名 記載なし

〔再録三〕

『いはらき新聞』、いはらき新聞社、

一九六三(昭和三十八)年十一月三日、生活のうた、五面、再録題名「菊」  
10、島

『朝日新聞』、朝日新聞社、

一九六五(昭和四十)年四月二十五日、春のうた④、一一面  
11、えしやく

『草原』、第九号、地球社、

一九六六(昭和四十二)年十一月二十日、五頁  
12、冠

『歷程』、八十九号、歷程社、

一九六五(昭和四十)年十二月一日、表二  
13、杖突峠

『詩学』、第二十一卷第六号、詩学社、

一九六六(昭和四十二)年六月三十日、三七頁  
〔再録〕

『詩学』、第二十八卷第六号、詩学社、

一九七三(昭和四十八)年六月三十日、四一―四三頁  
14、崖

『無限』、第七号、政治公論社無限編集部、

一九六一(昭和三十六)年四月一日、一四五頁、初出題名「話」  
健康な漁夫

15、健康な漁夫

『無限』、第十五号、政治公論社無限編集部、

一九六四(昭和三十九)年二月一日、四七頁  
16、仲間

『現代詩』、第十卷第三号、飯塚書店、

一九六三(昭和三十八)年三月一日、四八―五〇頁  
17、藁

『詩と批評』、第二卷第一号、昭森社、

一九六七(昭和四十二)年一月一日、二四―二五頁  
〔再録一〕

『詩と批評』、第二卷第十一号、昭森社、

一九六七（昭和四十二）年十二月一日、一六一―一七頁

〔再録二〕

『詩人会議』、第十三卷第五号、飯塚書店、

一九七五（昭和五十）年五月一日、二八頁

18、貧しい町

『鹿児島新報』、鹿児島新報社、

一九六三（昭和三十八）年三月六日、おんなのつづやき、六面、

初出題名「貧しい街」

〔再録一〕

『スポーツニッポン』、スポーツニッポン新聞社、

南伊豆町立図書館石垣りん文学記念室

([https://www.town.minamizu.shizuoka.jp/bunya/tosyokan\\_ohers/](https://www.town.minamizu.shizuoka.jp/bunya/tosyokan_ohers/))

『既刊詩・資料情報』において、一九六三（昭和三十八）年三月二十二日とあるが、紙面不明、現物未確認

〔再録二〕

『いはらき新聞』、いはらき新聞社、

一九六三（昭和三十八）年四月十日、おんなのつづやき、五面、

再録題名「貧しい街」

19、落語

『詩学』、第十八卷第三号、詩学社、

一九六三（昭和三十八）年三月三十日、三六一―三七頁

20、めくらの祭り

『詩学』、第十六卷第八号、詩学社、

一九六一（昭和三十六）年七月三十日、五〇―五一頁

21、海のながめ

『無限』、第二〇号、政治公論社無限編集部、

一九六六（昭和四十二）年五月一日、九二―九三頁

22、土地・家屋

『詩と批評』、第三卷第五号、昭森社、

一九六八（昭和四十三）年五月一日、一四―一五頁

〔再録一〕

『現代詩手帖』、第十一卷第十二号、思潮社、

一九六八（昭和四十三）年十二月一日、九三―九四頁

〔再録二〕

『家庭画報』、第十五卷第一号、世界文化社、

一九七二（昭和四十七）年一月二十日、九二頁

23、鬼の食事

『歷程』、第二二〇号、歷程社、

一九六八（昭和四十三）年九月一日、一六頁

〔再録一〕

『現代詩手帖』、第十一卷第十二号、思潮社、

一九六八（昭和四十三）年十二月一日、九四―九五頁

〔再録二〕

『ユリイカ』、第二卷第十三号、青土社、

一九七〇（昭和四十五）年十二月一日、一二七頁

24、経済

『歷程』、第二二〇号、歷程社、

一九六八（昭和四十三）年九月一日、一四頁

25、愚意の国

『ユリイカ』、第五卷第三号、書肆ユリイカ、

一九六〇（昭和三十五）年三月一日、三四―三五頁

26、カッパ天国

『行友ニュース』、日本興業銀行行友会、

一九六〇（昭和三十五）年五月、現物未確認

〔再録〕

『現代詩』、第七卷第七号、飯塚書店、

一九六〇（昭和三十五）年七月一日、七二―七三頁

27、銭湯で

初出未詳、現物未確認

28、公共

『詩と批評』、第二卷第四号、昭森社、

一九六七（昭和四十二）年五月一日、七二―七三頁

29、ひとり万歳

『伊勢新聞』、伊勢新聞社、

一九六三(昭和三十八)年十二月三十一日、五面、初出題名「ひとり万才」

〔再録〕

『蒲郡名撰 おいでん』、第二十五号、おいでん編集室、

一九八九(昭和六十四)年一月一日、二二三頁、再録題名「ひとり万才」

30、  
弔辞

『行友ニュース』、日本興業銀行行友会、

一九六五(昭和四十)年八月十六日、頁不明、現物未確認

31、  
唱歌

『歷程』、第二二〇号、歷程社、

一九六八(昭和四十三)年九月一日、一三頁

32、  
家出のすすめ

『現代詩』、第八卷第五号、飯塚書店、

一九六一(昭和三十六)年五月一日、四八―五〇頁

〔再録〕

『現代詩手帖』、第五卷第十三号、思潮社、

一九六一(昭和三十六)年十二月一日、七〇―七二頁

33、  
干してある

『歷程』、第一一六号、歷程社、

一九六八(昭和四十三)年五月一日、二四頁

34、  
母の顔

『歷程』、第二二〇号、歷程社、

一九六八(昭和四十三)年九月一日、一三頁

35、  
ちいさい庭

初出未詳、現物未確認

36、  
童謡

『現代詩』、第八卷第十二号、飯塚書店、

一九六一(昭和三十六)年十二月一日、七二―七三頁、初出題名「えらい」

37、  
生えてくる

『詩人連邦』、第七卷第十一号、詩人連邦発行所、

一九六二(昭和三十七)年十一月一日、八―九頁

### 三、第三詩集『略歴』

この詩集は、計三回にわたって刊行されている。

①『略歴』、花神社、

一九七九年(昭和五十四)年五月九日

②『石垣りん文庫3 詩集 略歴』、花神社、

一九八七(昭和六十二)年十一月二十日

③『略歴』、童話屋、

二〇〇一(平成十三)年六月十二日

1、朝のパン

『手づくりのパンとお菓子』、学習研究社、

一九七六(昭和五十二)年六月、六頁

2、洗たく物

『京都新聞』、京都新聞社、

一九七四(昭和四十九)年六月九日、一―二面

〔再録一〕

『四国新聞』、四国新聞社、

一九七四(昭和四十九)年六月二十三日、一―二面

〔再録二〕

『秋田魁新報』、秋田魁新報社、

一九七四(昭和四十九)年六月二十五日、九面

〔再録三〕

『詩とメルヘン』、第五卷第十一号、サンリオ、

一九七七(昭和五十二)年十月一日、三〇頁

3、村

『花・現代詩』、第2号、花・現代詩編集部、

一九六九(昭和四十四)年八月十日、一頁



4、儀式

『婦人之友』、第六十七卷第九号、婦人之友社、

一九七三（昭和四十八）年九月一日、二二〇―二二二頁

〔再録〕

『あじさい』、第十八号、神戸市立働く婦人の家、

一九八〇（昭和五十五）年七月三十一日、二四頁

5、鬼籍

『詩とメルヘン』、第七卷第四号、サンリオ、

一九七九（昭和五十四）年四月一日、頁不明

6、きのこの顔

『詩とメルヘン』、第二卷第二号、サンリオ、

一九七四（昭和四十九）年三月一日、頁不明

7、新年の食卓

『佐賀新聞』、佐賀新聞社、

一九七七（昭和五十二）年一月一日、四七―四八頁

〔再録一〕

『福井新聞』、第三部、福井新聞社、

一九七七（昭和五十二）年一月一日、三三―三五頁

〔再録二〕

『秋田魁新報』、秋田魁新報社、

一九七七（昭和五十二）年一月一日、一〇〇―一〇二頁

〔再録三〕

『中国新聞』、中国新聞社、

一九七七（昭和五十二）年一月四日、文化、九頁

〔再録四〕

『中部経済新聞』、中部経済新聞社、

一九七七（昭和五十二）年一月五日、一〇―一三頁

〔再録五〕

『南日本新聞』、南日本新聞社、

一九七七（昭和五十二）年一月六日、六頁

〔再録六〕

『四国新聞』、四国新聞社、

一九七七（昭和五十二）年一月二十一日、一〇―一三頁

〔再録七〕

『全人教育』、第五十二卷第一号、玉川大学出版部、

一九七八（昭和五十三）年一月十日、二六―二七頁

〔再録八〕

『婦人しんぶん』、日本婦人会議、

一九八一（昭和五十六）年一月一日、三―四頁

8、鏡

『アート・トップ』、第八卷第三号、芸術新聞社、

一九七七（昭和五十二）年六月一日、一頁

〔再録〕

『全人教育』、第五十二卷第一号、玉川大学出版部、

一九七八（昭和五十三）年一月十日、二七―二八頁

9、海

『サンケイ新聞』、サンケイ新聞社、

一九七七（昭和五十二）年七月三十日、夕刊五面

〔再録〕

『全人教育』、第五十二卷第一号、玉川大学出版部、

一九七八（昭和五十三）年一月十日、二八―二九頁

10、夏の本

『四国新聞』、四国新聞社、

一九七七（昭和五十二）年八月二十八日、一〇―一三頁

〔再録〕

『秋田魁新報』、秋田魁新報社、

一九七七（昭和五十二）年八月二十九日、九頁、再録題名「夏の本」

11、略歴

『短歌』、第二十四卷第四号、角川書店、

一九七七（昭和五十二）年四月一日、一五六―一五七頁

12、行く

『現代詩手帖』、第二十一卷第二号、思潮社、

一九七八（昭和五十三）年二月一日、四〇―四二頁

- 13、木  
『ユリイカ』、第九卷第六号、青土社、  
一九七七（昭和五十二）年六月一日、二六―二七頁
- 14、わたくしをそそぐ  
『ユリイカ』、第四卷第十一号、青土社、  
一九七二（昭和四十七）年十月一日、五四―五六頁、  
初出題名「心血をそそぐ」
- 15、定年  
『民主文学』、第一二二号、新日本出版社、  
一九七六（昭和五十二）年一月一日、一五二―一五三頁
- 16、白い猫  
『歷程』、第一三〇号、歷程社、  
一九六九（昭和四十四）年七月一日、三頁  
〔再録〕  
『鳩よ!』、第六卷第二号、マガジンハウス、  
一九八八（昭和六十三）年二月、七六頁
- 17、種子  
『歷程』、第一二六号、歷程社、  
一九六九（昭和四十四）年三月一日、一頁
- 18、遙拝  
『歷程』、第一二九号、歷程社、  
一九六九（昭和四十四）年六月一日、一七頁
- 19、町  
『歷程』、第一二七号、歷程社、  
一九六九（昭和四十四）年四月一日、六頁
- 20、水槽  
『歷程』、第一三〇号、歷程社、  
一九六九（昭和四十四）年七月一日、三頁
- 21、モン  
『詩学』、第二十四卷第二号、詩学社、  
一九六九（昭和四十四）年三月三十日、二六―二七頁
- 22、へんなオルゴール  
『四季』、終刊号、潮流社、  
一九七五（昭和五十）年五月二十日、一三二―一三三頁
- 23、追悼  
『詩学』、第三十三卷第四号、詩学社、  
一九七八（昭和五十三）年三月三十日、八―一八頁
- 24、神楽坂  
『歷程』、第二二五号、歷程社、  
一九七六（昭和五十二）年九月一日、二―三頁
- 25、まこちゃんが生んだ日  
『歷程』、第二二六号、歷程社、  
一九七六（昭和五十二）年十月一日、一〇頁  
〔再録〕  
『詩とメルヘン』、第五卷第十二号、サンリオ、  
一九七七（昭和五十二）年十月一日、二六頁
- 26、空をかっいで  
『幼年時代』、創刊号、矢立出版、  
一九七八（昭和五十三）年一月十日、八―九頁
- 27、大根  
『詩人会議』、第十六卷第四号、飯塚書店、  
一九七八（昭和五十三）年四月一日、八頁
- 28、旅  
『歷程』、第一二九号、歷程社、  
一九六九（昭和四十四）年六月一日、一七―一八頁
- 29、着物  
『草月』、第七十六号、草月出版、  
一九七二（昭和四十六）年五月二十五日、三―三頁
- 30、池  
『歷程』、第二二八号、歷程社、  
一九七七（昭和五十二）年十月一日、六頁
- 31、ミサ曲  
『文學界』、第二十七卷第十号、文藝春秋、

- 32、一九七三(昭和四十八)年十月一日、九頁  
ケムリノ道  
『ユリイカ』、第七卷第二号、青土社、  
一九七五(昭和五十)年二月一日、二四―二五頁
- 33、劇評  
『歷程』、第一三九号、歷程社、  
一九七〇(昭和四十五)年四月一日、八―九頁
- 34、信用  
『都市』、第三号、都市出版社、  
一九七〇(昭和四十五)年七月一日、二〇四―二〇五頁
- 35、情況  
『新潮』、第六十九卷第六号、新潮社、  
一九七二(昭和四十七)年六月一日、二二―二三頁  
〔再録〕  
『現代詩手帖』、第十五卷第十四号、思潮社、  
一九七二(昭和四十七)年十二月一日、七二―七三頁
- 36、水  
『朝日新聞』、朝日新聞社、  
一九六九(昭和四十四)年八月二十九日、一七面
- 37、別れ  
『文藝春秋』、第四十九卷第十三号、文藝春秋、  
一九七一(昭和四十六)年十月一日、八七頁
- 38、福島潟  
『文藝春秋』、第五十四卷第八号、文藝春秋、  
一九七六(昭和五十二)年八月一日、八九頁
- 39、地平線  
『文藝春秋』、第四十七卷第六号、文藝春秋、  
一九六九(昭和四十四)年六月一日、八七頁
- 40、夕鶴  
『歷程』、第一三九号、歷程社、  
一九七〇(昭和四十五)年四月一日、八頁

- 41、風俗  
『詩学』、第二十五卷第十四号、詩学社、  
一九七〇(昭和四十五)年四月三十日、一六一―一七頁
- 42、十三夜  
『歷程』、第一二五号、歷程社、  
一九六九(昭和四十四)年二月一日、八頁
- 43、河口  
『文藝』、第九卷第二号、河出書房新社、  
一九七〇(昭和四十五)年二月一日、一三八―一三九頁
- 44、荷  
『文藝』、第九卷第二号、河出書房新社、  
一九七〇(昭和四十五)年二月一日、一三九頁
- 45、式のととで  
『文藝』、第九卷第二号、河出書房新社、  
一九七〇(昭和四十五)年二月一日、一四〇―一四二頁
- 46、女  
『文藝』、第九卷第二号、河出書房新社、  
一九七〇(昭和四十五)年二月一日、一四二―一四三頁
- 47、子守唄  
『文藝』、第九卷第二号、河出書房新社、  
一九七〇(昭和四十五)年二月一日、一四三頁

#### 四、第四詩集『やさしい言葉』

この詩集は、計三回にわたって刊行されている。

- ①『やさしい言葉』、花神社、  
一九八四(昭和五十九)年四月二十一日
- ②『石垣りん文庫4 詩集 やさしい言葉』、花神社、  
一九八七(昭和六十二)年十二月二十日

③『やさしい言葉』、童話屋、  
二〇〇二(平成十四)年六月十二日

- 1、喜び  
『文藝』、第十九卷第一号、河出書房新社、  
一九八〇(昭和五十五)年二月一日、一四八―一四九頁
- 2、おみやげ  
『ユリイカ』、第十三卷第四号、青土社、  
一九八一(昭和五十六)年四月一日、三二―三三頁  
〔再録〕  
『びう』、教育総研、  
一九八八(昭和六十三)年二月、現物未確認
- 3、摘み草  
『いしゅたる』、第三号、いしゅたる社、  
一九八三(昭和五十八)年七月十日、二―三頁
- 4、ことば  
『文學界』、第三十六卷第二号、文藝春秋、  
一九八二(昭和五十七)年二月一日、九頁
- 5、経済  
一九七九(昭和五十四)年十二月、地下鉄明治神宮前駅壁面に掲示、  
現物未確認  
〔再録〕  
『地下鉄のオルフェ』、オーデスク、  
一九八一(昭和五十六)年四月、四六―四七頁
- 6、向こうから来た人  
一九八二(昭和五十七)年五月一日から七月末日、新宿センタービルB一  
水の広場に掲示、現物未確認
- 7、木のイメージ  
『文學界』、第三十七卷第十一号、文藝春秋、  
一九八三(昭和五十八)年十一月一日、九頁
- 8、やさしい言葉  
『小説新潮』、第三十四卷第三号、新潮社、

- 9、還暦  
一九八〇(昭和五十五)年三月一日、二三頁  
『日本経済新聞』、日本経済新聞社、  
一九八〇(昭和五十五)年六月一日、六月の詩I、二四―  
二六頁
- 10、穴  
『日本経済新聞』、日本経済新聞社、  
一九八〇(昭和五十五)年六月八日、六月の詩II、二四―  
二五頁  
同時代  
『日本経済新聞』、日本経済新聞社、  
一九八〇(昭和五十五)年六月十五日、六月の詩III、二四―  
二五頁
- 11、雀  
『日本経済新聞』、日本経済新聞社、  
一九八〇(昭和五十五)年六月二十二日、六月の詩IV、二四―  
二五頁
- 12、道  
『日本経済新聞』、日本経済新聞社、  
一九八〇(昭和五十五)年六月二十九日、六月の詩V、二四―  
二五頁
- 13、挨拶状  
『現代詩手帖』、第二十六卷第三号、思潮社、  
一九八三(昭和五十八)年三月一日、四二―四三頁
- 14、地方  
『山形新聞』、山形新聞社、  
一九八〇(昭和五十五)年二月二十日、二面  
〔再録一〕  
『京都新聞』、京都新聞社、  
一九八〇(昭和五十五)年二月二十一日、文化、一三―  
一四頁  
〔再録二〕  
『信濃毎日新聞』、信濃毎日新聞社、  
一九八〇(昭和五十五)年二月二十六日、夕刊四面  
希望の方角
- 15、秋田魁新報  
『秋田魁新報』、秋田魁新報社、  
一九七九(昭和五十四)年八月二十七日、七面

17、川のある風景

『毎日新聞』、毎日新聞社、

一九八〇（昭和五十五）年八月二十二日、夕刊四面

18、鮎

『新潟日報』、新潟日報社、

一九八一（昭和五十六）年六月六日、あけくれの詩、夕刊七面

〔再録一〕

『信濃毎日新聞』、信濃毎日新聞社、

一九八一（昭和五十六）年六月二十二日、夕刊四面

〔再録二〕

『秋田魁新報』、秋田魁新報社、

一九八一（昭和五十六）年六月二十七日、九面

19、父の日に

『秋田魁新報』、秋田魁新報社、

一九七九（昭和五十四）年六月十二日、七面

〔再録〕

『新潟日報』、新潟日報社、

一九七九（昭和五十四）年六月十七日、一二面

20、時の記念日に

『新潟日報』、新潟日報社、

一九八〇（昭和五十五）年六月八日、九面

〔再録一〕

『信濃毎日新聞』、信濃毎日新聞社、

一九八〇（昭和五十五）年六月九日、夕刊四面

〔再録二〕

『秋田魁新報』、秋田魁新報社、

一九八〇（昭和五十五）年六月十一日、九面

21、銀河

『信濃毎日新聞』、信濃毎日新聞社、

一九八〇（昭和五十五）年七月七日、夕刊四面

22、跳躍

『信濃毎日新聞』、信濃毎日新聞社、

一九八〇（昭和五十五）年四月二十一日、夕刊四面

〔再録〕

『秋田魁新報』、秋田魁新報社、

一九八〇（昭和五十五）年四月二十三日、九面

23、春の日

『文藝春秋』、第五十八巻第四号、文藝春秋、

一九八〇（昭和五十五）年四月一日、八九頁

24、勝負

『文藝春秋』、第六十巻第十四号、文藝春秋、

一九八二（昭和五十七）年十二月一日、八九頁

25、晴れた日に

『新潟日報』、新潟日報社、

一九八一（昭和五十六）年十一月二十八日、あけくれの詩、夕刊七面

〔再録一〕

『信濃毎日新聞』、信濃毎日新聞社、

一九八一（昭和五十六）年十一月三十日、夕刊四面

〔再録二〕

『秋田魁新報』、秋田魁新報社、

一九八一（昭和五十六）年十二月十九日、一〇面

〔再録三〕

『岩手日報』、家庭版盛岡地域、岩手日報社、

一九八二（昭和五十七）年十一月二十日、一七面

26、青い鏡

『新潟日報』、新潟日報社、

一九八一（昭和五十六）年八月十五日、あけくれの詩、夕刊七面

〔再録一〕

『信濃毎日新聞』、信濃毎日新聞社、

一九八一（昭和五十六）年八月十七日、夕刊四面

〔再録二〕

『秋田魁新報』、秋田魁新報社、

一九八一（昭和五十六）年八月二十二日、七面

- 27、ユブラ  
『秋田魁新報』、秋田魁新報社、  
一九八〇（昭和五十五）年八月六日、九面
- 28、きのうの夢  
『朝日新聞』、朝日新聞社、  
一九八二（昭和五十七）年七月一日、夕刊五面  
演歌
- 29、『海』、第一七一号、中央公論社、  
一九八三（昭和五十八）年六月一日、二八―二九頁
- 30、酔余  
『日本経済新聞』、日本経済新聞社、  
一九八一（昭和五十六）年四月十四日、夕刊九面
- 31、兵士の世代  
『詩人会議』、第十八卷第三号、飯塚書店、  
一九八〇（昭和五十五）年三月一日、一六一―一七頁  
坂道
- 32、『歷程』、第二五九号、歷程社、  
一九八〇（昭和五十五）年五月一日、一〇頁  
太陽の光を提灯にして  
テレビ静岡で放映、日本の夜明け、  
一九八一（昭和五十六）年一月、現物未確認  
〔再録一〕  
『びいふる』、出版社不明、  
一九八五（昭和六十）年一月、現物未確認  
〔再録二〕
- 33、『労働ニュース』、臨時増刊号、総評教宣局、  
一九八五（昭和六十）年十二月二日、三二頁  
初日が昇るしき  
テレビ静岡で放映、  
一九八三（昭和五十八）年一月、現物未確認  
夜明けの風景  
『赤旗』、日曜版第二部、日本共産党中央委員会
- 34、
- 35、
- 1984（昭和五十九）年一月一日、一面  
〔再録一〕  
『小学生のお母さん』、福武書店、  
一九八五（昭和六十）年一月一日、現物未確認  
〔再録二〕  
『チャレンジママ』、出版社不明、  
一九八五（昭和六十）年一月一日、現物未確認  
早春の旅  
『読売新聞』、読売新聞社、  
一九八〇（昭和五十五）年三月二十八日、夕刊七面  
洗剤のある風景  
『女性のひろば』、第四十一号、日本共産党中央委員会、  
一九八二（昭和五十七）年七月一日、一三頁  
原町市にて  
『福島県現代詩人会会報』、第十四号、福島県現代詩人会、  
一九八一（昭和五十六）年十一月十日、二面、初出題名「原ノ町市にて」  
大橋というところ  
『花神』、第一卷第三号、花神社、  
一九八一（昭和五十六）年八月一日、二―三頁